お・も・し・ろ・人・立
めだかの学校だより
平成14年8月1日
第37号
学舎：いなさ自然休養村
＜つみくさ＞
事務局：引佐郡引佐町
東久留女木472-111
TEL053-545-0381

校長訓話

第三十七回校長　早川　裕康

「めだかの学校の方～、めだかの学校の方は、アナウンスコーナーまでお越し下さい」。

こんなアナウンスが第一回地域づくり団体全国協議会岐阜県大会の交流会会場に流れました。流した犯人は、私、岐阜県福岡町の夢倶楽部の早川でした。ホテルでの立食パーティでごった返す中、人の波をかき分けやって来たのが、めだかの事務局の榊原さんと上嶋さん。これが、私のめだかとの最初の出会いでした。

かねてより、武井紀夫先生を地域づくりの師と仰ぎ、「武井教の信者」と夢倶楽部のメンバーから言われていた私は、先生からめだかの学校の事を聞いていて、たまたま、当日の参加者名簿にその名前をみつけ、どんな人たちなのか会ってみたくて、興味半分にアナウンスの依頼をしたのです。

その日は名刺と活動資料の交換をして分かれたのですが、なんと一ヶ月もしないうちに、お二人が私の家までたずねてこられました。

「今度、めだかの遠足を企画するので、その途中で夢倶楽部の人と交流会を持ちたいのですが…」というわけです。落ち合う場所は長野県浪合村、近藤さんのところのトンキラ農園となり、これがきっかけでめだかの学校の生徒になりました（たしか、それがきっかけで湯布院へ行ってしまった人も…）。

そのとき、浪合村の満天の星を仰ぎ、見上げてごらん夜空の星～を演奏し、「僕はふうてんの寅さんみたいになりたい」と言っておられた草笛の加茂さんも、当時勤めていた浜松フラワーパークをやめ、今ではりっぱな寅さんになり、凡人ではなかなか渡れない人生の川の向こう岸に…

加茂さんには福岡小学校で、父親参観日の後、「親子で聞く草笛コンサート」に来ていただきました。その時いただいた熱帯の豆科の植物「幸せの鈴」は、ひそかに福岡町で増殖中です。

上嶋さんには、ローマンキャンプ場を借りて、夢工房の奥さんたちに小石細工を教えていただきました。遠州ゆかりの絵馬師の個展を福岡公民館で開いたこともあります。遠州夢倶楽部を始めとし、上嶋さんは本当にいろんな人を福岡町に連れてきてくださいました。

久米さんの遠州夢倶楽部とは、一緒に産品開発をしたり、交流販売をしたりしています。

中でも西原さんとは、こちらが本場のフィールドフォークを通じて一番仲良くなり、〈つみくさ〉で「我夢土下座」のコンサートをひらいたこともあります。

ふり返ってみると、めだかの学校での多くの方との出会いは、私に、元気と楽しい時間、学びの場を豊かにもたらしました。

人ひとりが生きてきた中で、培ってきた知恵や生き様には、素晴らしい素材がいっぱい詰まっています。人がそれぞれの専門分野、趣味やこだわりで、先生になり生徒となり互いに学び合い、もう一人の自分を発見していく場、それがめだかの学校だと思っています。

めだかの学校創立メンバーの一人、武井紀夫さんを生みの親とするなら、めだかの学校と夢倶楽部は兄弟塾。めだかの学校も今年で10年。私のいる夢倶楽部も10年。そのことを知っていて、私に校長を指名した榊原さん、うれしくもあり不安でもあります。

めだかの学校伝言板

――第37回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校　長／早川裕康
教　頭／市川美鈴
用務員／萩田　博
給食係／斎藤　昭・鈴木計芳・市川祐一
佐原　剛・柴田宏祐・尾上美智子
関　京子・今村純子・鈴木真弓
湯浅明美・大谷香代子・佐野文子
渡辺三ツ子（チーフ）

＜学舎＞静岡県引佐郡引佐町奥山1737-286
いなさ自然休養村「つみくさ」内
TEL 053-543-0321（開校日のみ）

開校日／平成14年9月6日（金）6:20PMより
受　付／鈴木利定・福井紀夫・佐藤律子
藤田吉恭（後見人）

＜時間割＞～燃えろ！響け！舞い歌え！～
PM6:20　開校、校歌斉唱
6:35　観音山少年自然の家オリエンテーション
6:50　総合プロデューサーからの説明
7:00　給食の時間～松たけごはんです～
7:40　～めだかのひ・めだかのひまつり～
ﾌｧｲﾔｰを囲んで、燃えろ！響け！舞い歌え！
・森の精＝早川裕康（校長・訓話）
・付き人＝市川美鈴（教頭）
・先　導＝萩田　博（用務員）
10:15　閉校式
10:30　夜なべ談義（宿泊生他）

めだかの動き　泳ぎ回るめだかたち

■九州大分をブラブラと

由布院温泉など九州大分ツアーに限定五名様募集というお誘いが、例によって溝口久さんからあった。なぜ限定五名かというと、一日五千円ほどで借りることができる小型レンタカー一台に乗れる人数だそうである。そして五月下旬、久さんと正士さんに私、韮山町からの二名で、九州訪問団が組まれた。

スタートは当然、由布院温泉である。かなり「湯布院映画祭」や「牛食い絶叫大会」ほど大々的ではないが、由布院温泉の数々の行事の中でも重要な存在となっている。今回のツアーのメインである「ゆふいん文化・記録映画祭」を見た。映画にもいろいろあるが、動植物の生態、各地のお祭りや風習などを記録した地味で堅い記録映画の上映を、お祭りにしてしまっているから由布院はすごい。テレビで科学番組などは良く見るものの、フィルムの記録映画を見るなどというこの、小学校の映画教室では、「月光仮面」の前に掛かった題名も内容も覚えていない記録映画を見て以来である。記録されていないのであるから当然事実しか記録されていないのである。しかし、改めてしっかりと見ると、対象の姿や形、動作や風景の切り取り方によって、製作者の意図が強烈に表現されている。場合によっては劇映画よりもドラマティックで作者の主張も強く出されていて、隠れたファンも少なくないことなどがいろいろ。

映画祭の実行委員長で由布院観光協会長の中谷健太郎さんをはじめとするスタッフ、上映される映画の製作関係者や全国から来ている観客との夜遅くまでの交流も楽しませてもらった。特に、スタッフの一員で、以前からたくさんのエッセーをメールで送ってくれている大分県の職員で健筆家の木谷さんにはじめてお目に掛かれて、嬉しかった。

二日目は、湯平温泉である。由布院温泉ほど知られていないが、湯平温泉も湯布院町内にある温泉郷である。久さんと今回同行した韮山町の吉村さんの友人で、湯布院町役場に勤める古長さんの家でもある温泉宿にお世話になり、知る人ぞ知るあの「関さば」と「関あじ」をご馳走になってしまった。急流の河岸に立っているひなびた温泉街は、由布院温泉とは全く違った趣が印象的であった。中でも、薬局、おみやげ屋、衣料品屋、お菓子屋を兼ねているまさしく雑貨屋さん、老夫婦が続けている温泉饅頭屋さん、地域の若者の出資で営業しているスナックなどでの、温泉街の方々とのやり取りは忘れられない。

三日目は、もう一つの目的地である大山町であるが、行く途中にちょっと遠回りをして直入町に寄った。前回訪れたときは、役場の係長であった首藤勝次さんにお会いするためであった。直入町は、日本一の炭酸温泉を出る町で、この炭酸温泉を通じてドイツの温泉町と交流を進めたり、「御前湯」という温泉館を造るなど、エネルギッシュな首藤さんの話を久方ぶりに聞いて、みんなパワーをたくさんもらった。その後、久住、小国、そしてカメルーンチームのキャンプ地で有名になった中津江の近くを通って大山町の入った。

大山町は、かつて「梅栗植えてハワイへ行こう」という農業改良運動や地域づくり活動を推進したことで知られた町である。その大山町では、「鯖寿司」を奥さんと二人で製造販売していて、この4月に久さんの呼びかけで浜松や大須賀町など来られたことがある森さんにあっちこっち案内をして頂いた。手作り料理のバイキングレストランや地場産品の直売所に、まるでワインの貯蔵庫のような梅干蔵などを備えた「木の花ガルテン」や、森さんの果樹園などを見せてもらった。バイキングレストランは、地元の素材を地元の女性陣が調理をしているというこで、安くて美味しいことから大変な人気で、福岡などから来る人も多く土日はいつも行列が出来るようである。そして夜は、この大山町の前町長さんで菌床なめこの生産販売会社を経営している矢幡欣治さんの工場の庭で、従業員の方々に森さん御夫妻、矢幡さん御夫妻との大交流会を開いて頂いた。この交流会で蕎麦を出すことも今回のツアーの目的の一つであり、現地でのし板などの蕎麦打ち道具に蒸気釜まで用意して頂き、粉だけを持って行って蕎麦を打った。つゆは既製品で間に合わせる予定であったが、同行した蕎麦打ち人で料理家の吉村さんが急遽手作りをしてくれて、ほどほどの手打ち蕎麦を味わってもらうことができた。生ビールやワインにも鯖寿司などたくさんの酒と肴を頂きながら、話に花が咲いた。矢幡さんは、桃栗運動を創始した町長さんの息子さんで、やはり町長を務められた。今は、会社経営の傍ら、地域の人材育成のために人づくり塾を開いている。酒を飲みながらも「自分にとって幸せとは何か、一人ひとり発表しようよ」などと、幸福論まで交流の話題は幅広く尽きなかった。この夜は、あっかんまし、矢幡さんのお宅に泊めてもらい、それぞれのお宅に移ってからも、歓談はつきなかった。

今回の旅も、多くの方々にお世話になり、とても全部を紹介できないが、四日とも絶好の天気にも恵まれて、楽しいことがたくさんあった。九州の方々は、優しくて元気である。我々も「やらまいか」の風土に生きているが、九州人からまた違った熱さと元気を頂いた。本当に、九州の皆さんありがとうございました。

（なんでもあり農園小作人の松）

■三遠南信サミット２００２

快適空間三遠南信、そこに元気な観光・交流を望みに、殊更に新たな創造をとうたいあげた、サミット２００２が選択した命題は、今が流行りの「産業観光論」を議論の場に登場させた。先進的な装備を凝らした工場や生産技術だけでなく、企業成長のドラマを偲ばせる近代化遺産までも広く産業文化財として捉え、従来学童の社会科見学に留まっていた分野を観光レベルに引き上げ、新たなタイプの体験型観光の創造につなげようという論理。今回のサミットは大きくうねる観光時流を背景に、一次産業部門に及んでどんな模索の議論が展開するかが見もの一つだった。気がかりなのは、産業観光論の発想元は都市側からのもの、当面する花博や万博などの大型イベントや、外国人訪日来訪の増大を目指す「ウエルカムプラン」を睨んでの分科会設定など、どう見ても都市先行色ばかりが目立つ心配が先だった。

回を重ねること十回目にして云えば、浜松・豊橋・飯田のFMラジオ放送が本サミットに密着して、特別番組「もっと三遠南信情報局スペシャル」を企画し、フォルテ南広場の物産展会場に本局を構えての実況三時間番組が、三局ネット同時放送でサミットを盛り上げる試みが実現したこと。とかくマスコミ情報ですら流れにくい県際のネック解消に一役と、勇んで出演を買って出たばかりに、残念ながら本会場は覗けずじまいに終ってしまった。

終った感想はと問われれば、辛うじて間に合った最後の交流会で、明らかに郡部の顔が薄いドウナツ型交流のまが、全てを物語ってしまった。昼食を挟んだ事前打合せをとの召集を受け、はるばる信州から電車で駆け付けたメダカの一人が、打ち合せとは真っ赤なウソ、フォルテ８階の食事会と、講演を聞くだけにわざわざ浜松までと、局に走り込んで怒りをぶちまけ、五時の電車で帰って行った後姿が忘れられない。

（松田不秋メダカ）

■メダカの保存にのりだす　田沢の子ども

環境の変化と共に失われていくものと、新たに表れてくるものとがある。失われていくものの方が貴重であるかのように思われ、新たに生まれてくるものは人類にとって価値の薄いもののように思われる。

私たちの幼少時、田んぼはゲンゴロウ・タイコウチ・ミズカマキリ・タガメ・ヤゴ・アメンボウとそしてタニシ・ドジョウと水生生き物の宝庫であった。

その中には当然メダカも含まれる。田植えのシーズンになると、弁当を持って家族で出かけ、一家総出で取り組んだものだった。子どもはそれほど間に合うわけではないが、それでも猫よりは間に合ったのだろう。昼飯が楽しみで、見よう見まねで大人たちの背中を見ながら手伝った。午後ともなれば、子どもは飽きて、田んぼの水生昆虫を相手に興じたも

のだった。また、田んぼの直ぐ近くを流れる小川には、必ずメダカがいた。このメダカたちも、子どもの遊び相手であった。

子どもはこの体験から季節を、水や泥の感触を皮膚から感じ、水の生き物を足で、手で、目で、五感を通して命を感じ、祖父母や両親の働く姿から大人の生き様を感じ、教えられるまでもなく身につけていっだのであろう。

懐かしいのどかな心象風景として想い出されるのは自分だけではないと思う。

この原風景が今や見られないばかりか、水生の昆虫たちも数を減らしたり、姿を消したりしてしまっているからである。

ところが、ここ田沢の里のある小川には何と、まだメダカが生息していたのである。おまけに、日本ザリガニ（アメリカザリガニに対して）も同居していたのを危惧されていた生き物たちである。水田の人たちと深い関係にある生き物たちを何とかできないものか。

メダカを救え！　我が田沢の子どもたちが、第二東名高速道路に伴う工事で埋められる運命にある、近くの損沢川にいるメダカの「救出作戦」にあたった。

子どもたちに生き物を守る大切さを知って欲しいという願いと、自然環境の中で守り育てる方策を模索していきたい。

これからが大変だ。生き物を相手に子どもたちがどんな活動を展開してくれるのか。当分の間は、大水槽で飼育しながら保護していこう。

（石野省三メダカ）

■「やきそばフォ～ラム？？？」

静岡県内の地域づくり団体の組織「来づくりネットワーク」では今年の11月中旬～下旬、富士宮市を会場にフォーラムを予定しています。

察しの良い皆さんはすでにお気づきのことと思いますが、富士宮と言えば、そうヤキソバ！

さてさてどんなフォーラムになることやら（笑）

日程、内容etc詳しい内容は近日中に決定します。

皆さんもぜひヤキソバを食べに、いやフォーラムにご参加下さいね！

また8月30日、31日には「地域づくり団体全国研修交流会・宮城県大会」が開催されます。

サブテーマは「かくありき・仕掛け人たちの明日づくり」

宮城県内14ヶ所での分科会、仙台市での全体研修などが予定されています。

車で行ってもたったの10時間足らず、ちょっくら行ってみっかやぁ～

（遠州横須賀倶楽部　鈴木武史メダカ）

■南信濃村遠山郷より「諏訪神社御射山祭」

長野県南信濃村では、8月24・25の両日、五穀豊穣を願って「諏訪神社御射山祭」が行われます。山々にこだましてお腹にドカーンと響く花火が自慢の祭りです。玉置洋一メダカと川手志穂メダカが待ってま～す。

■引佐では星空コンサート

引佐町川名の都田ダム湖引佐湖畔で、8月10日（土）夕方6時半より岸義紘サクソフォンソロコンサートがあります。星空の下「ダニーボーイ」「アメイジング・グレイス」「闘牛師のマンボ」などサクソフォンの音色をお楽しみ下さい。「来たときよりも美しく」をモットーに、懐中電灯と敷物ご持参下さい。会費は千円（中学生以下無料）。当日会場で集めます。

石野省三・榊原幸雄メダカらが主催です。

なお、9月28日（土）には、白井勝文さんの「津軽三味線と語りのタベ」を予定しています。

■「猫の手倶楽部」の山仕事

「猫の手も借りたいくらい忙しい人の所へ、猫の手よりもましなお手伝いを！」農水省の元職員の鈴木厚正さんが千葉県や東京から仲間の皆さんと一緒に我家の山仕事を手伝いに来てくれます。

メダカの皆さんも気が向いたら是非我が家の山林に遊びに来て下さい。

9月5日（木）の午後から7日（土）午前までです。いつでも結構です。

（鈴木正士メダカ）

◇人・ひと・ヒト・・・だより

○照井泰子メダカ。7月24日浜松市で開催された三遠南信行政・経済サミットで、活動発表。三遠南信における「めだかの学校」「三遠信山岳都市研究会」「ひとネットワーク”ゆめまる”」「三遠南信情報誌”Ａｍｉ“」などの活動を報告。耳塚信博メダカも助っ人でお手伝い。

○南信濃村の玉置洋一メダカ。ヘルニヤで入院していたが、もう大丈夫。９月のめだかには是非出席します。

○西原　弘メダカ。仕事が多忙。９月の学校、音楽なら何としても仕事を片付け出席するゾ！。この意気込みよし！

○佐原　剛メダカ。今年のお中元はサッパリ・厳しいね。われら隙間奮闘商売！まぁじっくり行くさ。給食当番、配達を１日早めにして冷蔵車を空けるからネ。泣かせるねえ～。

○杉本　弘メダカ。天竜市内を中心に広告掲載のミニ情報誌の発行を予定している。天竜市の巷の情報を満載すると。

○上嶋裕志メダカ。岐阜県で趣味が昂じてそば屋を始めてしまった長谷川正夫メダカのお店にそば食べに。その足で遠州夢倶楽部とお付き合いのある岐阜県福岡町の早川裕康メダカ宅へ。相変わらずフットワークがいいねえ。

○落合啓二メダカ。県園芸博協会主宰の園芸講座の校長先生で大張り切り。「講座生が少なくマイッター」と言っていたが人気急上昇。今度は定員枠の人選にマイッタとは。

◇ご訃報

＊第六回校長の浅野信子さんが、6月2日五十七歳にて永眠いたしました。浅野さんは、めだかの学校初期の頃、給食担当として尽力してくれました。ご冥福を祈ります。

＊長谷川　務メダカ。7月21日焼津市の自宅にて永眠いたしました。長谷川さんは、静岡市で店舗設計の会社を経営。仕事多忙でなかなか出席できなかったが、メダカ生の前嶋屋や、リンデンバウムの店内装飾を手がけてくれた、ともに今あるのは彼のおかげ。ご冥福をお祈りします。

メダカ春秋

春まだ浅い日、町内に住む詩人の小川アンナさんが、近くまで来たからと工房に寄ってくださった。舅とは文学仲間であるが、私はそんなに近しくお話をしたこともなっかた。お茶をのみながら、町うちの誰かれのはなし、「あ～そうそう、この間、工房の裏の崖のボサに雉の番がいましたよ。」なんて云うことから、以前は山に居た雉が、東名の工事などで、河原の方に下りて来たのよと富士川の自然の話へ…昔はね…と、時を忘れて、いろいろな話を伺うことができた。「私も、だいぶ年だから、こんな話を皆にしておきたいのよ。」とのこと。

柚木恵美子さんにアンナさんがこんな事、話しているのだけど「工房で夜にでも、知り合い何人かで集まって、お話会みたいなものしませんか？」と提案したところ、庵原新聞でも自主講座みたいなものを考えていたと云う事で、話が進み、新聞社主催で講座が開かれることになった。だだお話だけでは、つまらないからと「徒然草」を読みながらと云う事になった。月2回、10人前後の会員と、お茶を飲みながらいろいろなお話を聞き、時にはダダーと脱線しながら楽しんでいる。

早いもので、あれから10年読みきれないかもしれないと、云っていた「徒然草」を読みきり「方丈記」「伊勢物語」そして、今「芭蕉・奥の細道」を読んでいる。

私の住んでいる富士川町岩渕は、江戸時代　間の宿「岩渕」と言われ、東海道と富士川水運の交わる所として栄え、文化活動も盛んだったようで、古いお宅にはその頃の物などが残っていたりする。私たちが今、その頃のことを再確認して、少しでも語り継ぐことが出来ればと思っている。

（天野　恵美子メダカ）

トピックス

☆鈴木武史メダカ。今年も東京・江戸川大学の講師に。静岡新聞に写真入の大きなスペースで掲載された。武史メダカ、知る人ぞ知る“祭り人間”。講義も祭囃子そのもの。でも今回の授業はちょっと違った。6月6日江戸川大学の鈴木輝隆助教授に連れられて数人の学生が課外授業で大須賀町にやって来た。数日、大須賀町や豊岡村など近郊を体験学習。その案内役や世話役は武史メダカや鈴木正士メダカやら数人のメダカ生。学生達にとっては最高の人的交流授業だった。それが帰路東名御殿場付近で交通事故に会い2名の学生が亡くなってしまった。そうした背景を持ちながらの授業だった。愛しい子に先立たれた親御さんの心情、亡くなられた学生さんの笑顔に授業の継続を決心した鈴木助教授、そして講義の依頼を請けとめた武史メダカ。新聞記事を読みながら涙がとまらなかった。一みなさんも、くれぐれも交通事故にはご注意を!。

（バラメダカ）

☆珍しいだって。オオルリが事務局リンデンバウムの玄関軒下に営巣。「ピューーチュイチュイッッ…」。電線で黒いツバメのような鳥が鳴いていた。数日後、玄関先のジュンベリーの木に来るようになった。アレッ、背中から尾にかけて青っぽい。こんどは茶色っぽい鳥がとんできた。夫婦?。そのうち交互に何かくわえてくる。あった?、巣だ。その鳥がオオルリと知ったバラメダカ!。嬉しくなって大はしゃぎ。くるお客さん、くるお客さんにペラペラペラ。親鳥はエサを運んできても子にやれない。これではとお店は4時閉店に。買物に出掛けようとしたら、オス鳥がいつもの枝にとまってジィーと玄関口を見ている。1時間ほどしてやっと出られたが…。翌朝3時半頃「チィチィ」の声で目がさめた。「いる、いる」。6時半ころ、「ジィジィ」の親の声を最後に、まだ飛べないだろう子とともにどこかへいってしまった。反省!。野生の鳥は警戒心が強い。そっとしておいてやればよかった。…いまだに子を持つ親の心境…。「ピューーチュイチュイッッ」。

（バラメダカ）

◆事務局より

■暑中お見舞い申し上げます。暑い日が続きます。みなさま如何お過ごしですか?元気溌剌!?ほんとうに結構でございます。事務局のバラメダカ、ボワーン、ヨロヨロ、ゴロ…。もうダメ!!…。エッ「めだかの学校だより」ですか?やってますけど…ゴメン。また今回も遅れちゃいます。でも37回は10年目最初の開校日だから少し気を入れ直して「10年目の足跡」でも出そうかなア。「あれ?12号以前のたよりはどこにあるんだ。それ以降は…と。いやア、虫食いだらけ。これじゃ10年の足跡どころか、10年史だってできないヨ。記憶だって定かではないし…どうしよう、マイッタなア…」。泣き顔のバラメダカに、そうっと手を差し出す美女ふたり。なんと「呼びかけのご案内」から「36号」まで几帳面に綴られているではないか。それ以外の資料まで。アリガト　アリガト…。嬉しさのあまり有頂天のバラメダカ、セッセセッセとやりはじめたはいいが、四百字詰原稿用紙…15、16…枚…。エッ、まだ半分?!。ちょっと待ってヨと一頓挫。…他の原稿もあるし…。○□△×…。第37回は学舎変更です。9年間36回続けてきた学舎「つみくさ」での授業ですが、「つみくさ」の仕事の段取りの都合でお借りすることができませんでした。そのため早川裕康校長の因縁浅からならぬ思いがある、以前「特別教室」でお借りした県立観音山少年自然の家（引佐町東久留女木観音山）に相談したところ快くお借りすることができました。10年目第1回の「めだかの学校」は、自然環境抜群の観音山中腹の学校での授業となります。そのことから7月17日豊岡村キッチン味里で開かれた職員、給食合同打ち合わせ会議で「会場の特徴を十分生かした授業にしよう!」とテーマも「燃えろ、響け、舞い!歌え!!　めだかの“ひ”めだかの“ひ”まつり」と決まりました。“ひ”は10年目の“日”とファイヤーの“火”にからめたものです。ひ”を囲み、大いに燃えましょう。満天の星のもと去りゆく夏を惜しみつつ…。　閉校式の後は夜ナベ談義　10時15分の閉校式の後は夜ナベ談義です。観音山自然少年の家は宿泊施設も完備しているので、極力宿泊（千円・朝食つき）するようにして、夜ナベ談義に参加するようにしましょう。8月31日（土）必着で出欠席の返事を!「出欠席」と「宿泊の可否」「ファイヤーで歌いたい歌」「夜ナベ談義で話し合いたいテーマ」を記入するハガキを同封します。出席できない生徒も「ひと言」コメントを添えて締切日までに提出してください。10年目最初の授業、なんらかの形で出席しましょう。給食はめだかの学校特製の「マツタケごはん弁当」です。給食は従来どおり給食係による手作り弁当ですが、調理は「引佐町伊平の伊平基幹センターの調理室をお借りして行います。これからも学舎「つみくさ」の厨房室はお借りすることができませんので、以後もこのような公民館をお借りしての作業となります。10年という節目をして周囲の状況も変ってきました。よい方法がありましたらご提言してください。皆様のお知恵をお貸しください。なにはともあれ、「第37回めだかの学校」は早川裕康校長の下、燃えて、響いて、舞って、大いに歌いましょう!一後ろ向き吹っとべ!めだかはいつも前向き!!一

■**めだかの学校10周年記念企画委員募集**

「10周年を記念して“めだかの学校”でしかできないような質が高く面白くて楽しいシンポジウムなどやろう!!」と36回めだかの学校で提案したところ以下の生徒が名乗りをあげてくれました。溝口久、石野省三、原邦司、鈴木正士、伊藤英雄、中村明男、加藤修一、松田不秋、今村純子、鈴木真弓、渡辺ミツ子、森下幸子、関京子、松本芳廣、服部守孝、水村春江、尾上美智子、佐野文子、照井泰子、鈴木武史、榊原幸雄。名乗りを上げたのに記録漏れの生徒、前回出席できず知らない生徒もいますので、再度提案します。希望者は「出欠席」のハガキで又は事務局までご連絡ください。

（榊原幸雄メダカ）

■**10期（平成14年9月1日～15年8月31日まで）の継続手続きを始めています。**現在80余名の生徒が手続きを済ませていますが、まだ済ませていない生徒が半分以上います。締切日が8月25日までですのでお早めに済ませるようにしてください。未提出の生徒のみ申込書を同封します。必要事項を記入し、千円を添えて事務局まで提出してください。その後も随時受け付けていますが、手続きをしない生徒は自動的に退学となりますのでご注意ください。

（事務局　榊原幸雄メダカ）

◆各地のたよりの掲載について

各地でいろいろ催事があると思います。個人情報でも結構です。期日以外でも。場所、日に合わせてまとめます。ハガキで封書で「FAX」でメールで。次回発行日は11月1日です。10月20日までに事務局へ。

Eメール／nb@nbnet.co.jp（エヌビーネット照井泰子あて）

めだかの学校事務局
〒431・2531
静岡県引佐郡引佐町東久留女木472・1111
「リンデンバウム」内　榊原幸雄

※「つみくさ」は学舎のみです。すべての連絡・お問い合わせは「事務局」にお願いいたします。